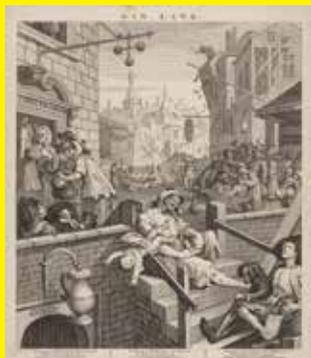




BEER STREET

Prosperity?



GIN LANE

Chaos?

ウィリアム・ホガース

(William Hogarth, 1697-1764)

18世紀イギリスの画壇を代表する国民的画家で、「イギリス絵画の父」と称される。特に、イギリスの同時代の社会や日常生活に焦点を当て、そこから道徳的・教訓的テーマを見出した社会風刺版画は、庶民の間でも知られるようになった。実際にそれらは「描かれた道徳 (pictured Morals)」と評された。ホガースは、題材となる情報収集のために、頻繁にコーヒーハウスに足を運び、そこに備えられている数種の新聞・雑誌の社会面を読み漁ったと言われている。



本展では、経済学者の大河内一男（東京大学元総長・名誉教授）・暁男（東京大学名誉教授）両氏が親子2代にわたって収集し、2017年度に東京大学経済学図書館に寄贈されたコレクション全71点を紹介します。



William Hogarth



Invasion Plate II England



Marriage à-la-Mode



An Election

大河内コレクションの特質

大河内一男は、自分の専門（社会政策・労働問題）とホガースの関連について次のように述回している。「ドロシー・マーシャルが取扱ったような下層階級、そしてホガースのエッチングに出てくるような頹廢的な生活の中におち込んだ下層の男女、その意味での十八世紀における『貧民』問題、その中からどうやって近代的な賃労働が作り上げられるのだろうか…」

本コレクションは、1730年代以降に発表された版画を中心とし、それ以前の挿絵などの作品を含んでいない。ホガースが社会諷刺画を制作するようになるのは1732年の連作「娼婦一代記」以降のことであり、ここからも大河内の向ける眼差しを窺い知ることができる。